

# カトリック六甲教会 教会報

2011  
12

No.480

## イエス・キリストの誕生 ～神の愛の表れ～

ダニエル・コリンズ神父

今年も残りわずかとなり、キリスト教会は待降節に入りました。クリスマスには幼な子イエス・キリストをお迎えし、その誕生をお祝いします。

2011 年前、ベツレヘムという場所に、神様は幼な子イエス・キリストを通して、突然、人類の歴史の中に現れました。神様はなぜ「その時」「その場所」を選ばれたのでしょうか。また、なぜわたしたちと同じ人間として現れることを選ばれたのでしょうか。しかも無力な人間の赤ちゃんとして。

「全知全能の無限の神様が限りのある赤ちゃんの形で自分の姿を表された。」これはいくら考えても人間には理解できない、正に「神秘」としか言いようがありません。キリスト教信仰の中心は、キリストの死と復活であることは間違いありません。しかし、今や信仰のあるなしにかかわらず、クリスマスは世界中で盛大に祝われ、幼な子イエス・キリストの誕生がたくさんの人々の心の中に大きな存在として位置づけられていることも事実です。「復活のキリストは、いつも我々とともにおられる」と私たちは言いますが、実際の生活の中では実感しにくく、分かりにくいことも確かです。しかし、赤ちゃんのイエス・キリストを想像した時はどうでしょう。笑ったり、泣いたりする赤ちゃんの姿を思いうかべると、その存在が急に身近に感じられ、あやしたり、一緒に遊んだりできるような気がしませんか。

これこそが神様の愛の表れではないでしょうか。赤ちゃんの姿を通して、神様の愛が私たちに示されたのです。わたしたちにわかりやすいように、幼な子の姿を通して、人類の歴史に入って来られたと言えるのではないのでしょうか。

神様の愛が具現化されたイエス・キリストの誕生を迎えるにあたり、その愛に思いをめぐらし、感謝して、みんなでクリスマスを心からお祝いいたしましょう。





## 【イエス・その6-A】

新約聖書で確認される最も古いキリスト論の定式は、霊肉キリスト論であり、高举と再臨という終末論的背景のもとに理解されている。この出発点から、すでに新約聖書においてキリストに対する反省的信仰の提示は様々に展開され、深められている。これは一方で、キリスト・主・人の子・神の子といった尊称に、他方で、先在・派遣・創造の仲介、世界（コスモス）の完成といった考えに表明されている。

### 1. 高举のキリスト論

新約聖書に現れる最も初期の段階は、高举のキリスト論である。

「このイエスを、神は復活させた。・・・そこでイエスは神の右に上げられた」。(使徒 2:32)  
神権主義的、預言的なことばを基にしているが、復活の根本的な側面としてイエスは神の右に上げられたという表現が用いられている。つまり、イエスの復活は、イエスがメシア的な神の子に定められて神と同等な主に即位したと見なされた。神の右に座すとは神と同等になる、あるいは主になると言う意味である。復活を語る高举という表現は、イエスに起こった事柄のある側面をあらわしている。イエスの復活は、神の元へ行ったと言うより、神の権威を授けられたことである。

フィリピ 2:5 には、キリストがメシア、キリストになったことが歌われている。「それゆえ神は彼を高く挙げて・・・」(高举)「すべてに優る名を与えた」(世界に対する全権)。

### 2. 再 臨

高举は独立した概念ではない。再臨の信仰と結びついている。復活という考えは、もともと黙示思想(神のお告げ、啓示)の発想である。黙示思想によれば復活は審判の条件であった。審判を受けるために死人は甦らされるのである。だから復活と言うとき、すぐに終末・再臨が連想された。従ってキリストの復活が述べられたとき、終末が目前であると受け取られた。だからキリストの復活・高举の信仰は、キリストのメシアとしての再臨を同時に生んだ。

マラナタ(我等の主よ来たり給え)という言葉で主キリストの到来を待ち望んだユダヤの原始教会は、終末の日にヤーウェの直接の到来ではなく、メシアであるキリストの再臨を期待した。高举のキリスト論の形成によって、福音の内容は、イエスが説いた内容より、イエス自身になったといえる。(ロマ 15:19, 1:9, 1:1)

### 3. 「人の子」と終末意識

ある神学者によれば、イエスは自分を人の子と称されなかったであろうという。再臨の信仰と結びついて、次第にイエスを人の子と呼ぶようになったというのである。ルカ 12:8 では、「誰でも人々の前で私を受け入れる者は、人の子も天使たちの前で受け入れる」と言って、イエスと人の子を区別している。人の子とは終末の時に来る裁き手のことである。再臨の時、イエスが人の子として裁きに来るという思想が広まり、そのため福音書の記事では、イエスと人の子が同一視されるようになったのである。

#### 4. 「霊肉キリスト論」(ロマ 1:3-4 他)

最古のキリスト論の定式は、霊肉(二段階)キリスト論である。

・ ロマ 1:3a-4

肉によれば→ダビデの子孫から生まれた。

霊によれば→死者の中からの復活により、力ある神の子と定められた。

・ I ペトロ 3:18-22

肉によれば→殺された。地下に赴く。

霊によれば→生かされた。復活。

ヤーウェの右に座し、天使たちと権威・権力を従える。

・ I テモテ 3:16

肉において→現れ。

霊において→義とされ、栄光のうちに昇られた。

フィリピ 2:5 以下のキリスト論は、霊肉キリスト論から一歩出ている。先在のキリスト論への移行過程である。この賛歌を二分するか三分するかで意味合いが変わってくる。

二分説：霊肉キリスト論

三分説：1. 神であったのに空しい者になった。

2. 死に至るまで謙虚に人間として過ごした。

3. 高举

{最古のキリスト論のまとめ}:

最古のキリスト論は、パウロ以前、パレスチナのユダヤ人教会の信仰段階である。イエスの思い出の近い時期なので、イエスは普通の人間であったという意識に疑いを置かなかった。そのイエスが、神と等しい者として礼拝されたのである。神の子という表現は、旧約聖書でも使われている。しかし、キリストには、それを越えた意味が付与されている。霊肉キリスト論を理解する上で、一つの誤解に注意する必要がある。二段階キリスト論は、キリストがある時点で神の子になったと言うことが強調されているように観られやすい。事実、養子説の異端が力を持ったことがある。しかしこれは、霊肉キリスト論の主張ではない。神の子という観点からの見方と人間からの観点とを分けて論じてから、しかもこれは同一の方であると論じているのである。即ち実際の論旨は、イエスは神の子であるという主張である。

{最古のキリスト論をまとめると以下のようなになる。}

1. イエスの復活に根ざしている。

2. キリストは主・神の子・神に等しい者として崇められている。この点で旧約の枠を越えている。

3. このキリストはイエスである。

使徒たちは、キリストをどのように理解していたのか。また聖書の中でどのように語られているのか。そして、後の時代の教父たちは、キリストをどのように理解したか。これについて次回教会報の基礎知識シリーズに掲載することとする。

主任司祭

松村信也

# ～地区会便り～

## 2011年度のバザーを終えて

準備、設営、販売そして後片付けと、様々の形で多くの方々が、バザーに参加いただきました。ありがとうございました。また参加は出来ずとも、バザーの成功をお祈りいただいた方々にも心からお礼を申し上げます。ありがとうございました。雨天にもかかわらず、例年に劣らない収益を上げることができたようです。バザーとしては大成功と感じています。

さて、「今年のバザーは地区会が担当します」という言葉を、何度か耳にされたと思います。本年度から教会行事を地区会が主として行うことになったので、バザーについても判りやすく説明するために使われた言葉だと思われます。ただ、私は、この言葉が違和感をもって聞かれる日が早く来ないかなと心待ちにしています。

昨年、地区会が試験的に一部の教会行事を担当したことがありました、その時のことです、それまである販売を担当していた某親睦会の方々が「技」を伝授しようと、人を待っている所を目撃しました。「地区会の人、遅いなー」「地区会の人、来んなー、誰が来るんやろ」と待っておられました。私は「主イエス・キリストの現れを待ち望んでい(1 コリント 1.7)」る、「自分が神の神殿であ(同 3.16)」るという読んだばかりの節が頭をよぎり、少し微笑ましくこの様子を眺めていました。

今年から「地区会の人」はどんなに待っても、もう現れることはありません。この教会に所属する人は(一部の例外を除き)すべての信徒がどこかの地区(又はブロック)に所属します。すべての信徒が「地区会の人」なのです。「地区会の人」を待っていた方が所属する地区が販売を担当すれば、人を待たなくとも「技」は地区や家族に受け継がれていきます。

もちろん、地区会は、今年から始まった訳ではありません。ずいぶんと前からありました。ただ、今年からは、婦人会などの親睦会に任せていた教会行事を、全信徒が所属する地区会で担っていくこととなります。これは、自分の共同体を人まかせにしないで自分で担う共同体に生まれ変わろうという模索と私は考えています。

教会行事の負担が、地区会に置き換わっただけという冷徹な批判もあるかも知れませんが、全信徒が所属する地区会は共同体そのものです。共同体の負担は家族や地域の兄弟姉妹で分かち合い、また一つ一つの教会行事の取り組みを、家族や地域での、信仰の広がり、宣教の契機としたいものです。

その意味で、バザーの成功とは別に、バザーでの各地区の取り組みの様子についての総括は、焦らず慎重に行いたいと思います。

(地区会コーディネーター 大橋)



## 1月8日教会新年会に使用する食品の提供のお願い

新年に、新成人のお祝いとクリスマスで受洗された方へのお祝いを兼ねた新年会の準備を担当することになりました東灘北2・芦屋地区よりお願いです。

主食・副食の準備は我々の手で行いますが、手作り菓子については広く皆様のご協力をお願い致します。今回は材料費程度のお支払いをしたいと存じます。1月7日(土)午後から8日(日)10時までに台所にお持ち願います。できますれば、12月末までに予告を願います。また、飲み物(ビール、ジュース、缶コーヒー等)のご寄付も合わせてお願い致します。

(東灘北2・芦屋地区長 馬場)

＜行事報告＞

### 宣教部主催 秋の黙想会に参加して

六甲教会宣教部主催の秋の黙想会～祈りは喜び～に参加させていただきました。

片柳神父様のお祈りについてのお話・古泉さんのヨガに基づく心と体の準備と実践は短い時間でしたが、お祈りへの考えを大きく変えてくれました。

義務でお祈りを捧げるのではなく、サマリアの女がイエスさまと井戸端でお話できたようにお祈りができて、その喜びがまわりの人たちに伝わることをねがっています。

黙想会には感謝の気持ちでいっぱいです。ぜひ、もっと多くの方たちが参加できますように続けてください。神に感謝。

K a m e l i a h L e w i s



＜行事報告＞

### 侍者練成会（9月23日、11月3日）

去る9月23日と11月3日に侍者練成会を行いました。練成会は終日かけて行い、今年初聖体を受けた初心者の子供たちには、侍者の心構え、身だしなみ、姿勢をはじめ、香部屋での注意、聖具についての説明と、聖堂で侍者の動きを実際に練習しました。聖堂での練習は、すでに侍者をしている小学生、中高生が合流参加して一緒に練習です。今、侍者を務めている小中高生たちを見ていて「もっと自信を持って侍者を務めることができれば、もっとよくなるのに」という思いがありましたので、何度も繰り返して体で覚え、年少者が戸惑っていたら教えてあげられるようになってお互いに成長していくことができるようにという狙いで経験者にも練成会への参加を呼びかけました。長時間に亘り、しかも盛りだくさんの内容できつと疲れ果てていたと思いますが、練習している姿を見ていると、主日のミサで侍者をしている中でここはどうしたらよいのだろうか？と一人一人が問題意識を持っていて、各自の問題を確認しているようでした。

参加した子供たちの感想は、言葉には出さなくても様々なことを感じ取っていたのだなあと思えるものばかりでしたが、ここに数名の感想文をご紹介します。（橘）

みんなにやさしくできて おぎょうぎのいい侍者になりたいです。（ななみ）

道具がわかった。いがいにやる事が多くかんじた。こんどじしやするときはこれをいかしたい。手をあわせるときやめないでいるようにする。（太至）

てきぱきとうごける侍者になりたいです。じゅんばんやうごきが分かった（少ししか分からなかったから）（さゆ）

今まで私はリーダーをしたことがなかったけれど、今日勉強してこれからはリーダー役もできそうかもしれないと思いました。自分の役割だけにとらわれず、周りの人にも気を配って侍者ができる

ようになりたいです。今日の侍者会で自分があっていたかどうか確かめられ、自信も少しつけられました。(奏)

今回侍者会に参加して、今まで細かい動作があやふやだったところを再確認することが出来た。これからリーダーとしての侍者をやると思うので、その時は他の子達がきちんと動けるよう教えられるよう頑張りたいです。(みちる)



<行事報告>

### 七五三の祝福 (11 月 13 日)

この度は七五三の祝福式をして下さいまして、ありがとうございました。敬愛する皆様が見守って下さる中、神父様におメダイをかけて頂く娘の姿を、幸せな気持ちで見えておりました。

おかげさまで、娘は今まで大きな病気をすることなく、元気に成長させて頂きました。そして今、教会の、教会学校の輪の中で大切に育てて頂いておりますことに感謝しております。

娘が生まれましてから七年間、あっという間でした。これからも娘が神様の愛を全身に受けての



びのび元気に大きくなることを祈りつつ、共に過ごすことのできるかけがえのない時間を大切に、彼女の成長を見守りたいと思います。

ありがとうございました。そして、どうぞよろしくお願い致します。

郁香 (7 歳)

母・静香



### 《各部だより》

#### 📖 小教区評議会

12 月 11 日 (日) 10:00 評議会

#### 📖 地区会

12 月 4 日 (月) 地区役員分かち合い

☆聖堂掃除当番

12 月 23 日 (金・祝) の金曜午後班の掃除は、

12 月 22 日 (木) に変更します。

(金曜午後班 詫・中口)

#### 📖 教会学校

12 月 18 日 (土) 終業式

#### 📖 社会活動部

12 月 2 日 (金) 連絡会 初金ミサ後

#### 📖 施設管理部

12 月 25 日 (日) 部会 10 時ミサ後

## 《 お知らせ 》

教会のみなさまに知って頂きたい活動やお知らせです

### ★ 教会学校より ★

#### みんなで分かち合うクリスマス

日 時：2011 年 12 月 18 日 10 時ミサ後より

みなさまのご参加をお待ちしています。



### ★ 典礼部より ★

今年もクリスマスが近づいてきました。例年通り主のご降誕夜半ミサは、24 日午後 4 時半「こどものミサ」に始まり、午後 7 時、午後 9 時と 3 回捧げられます。

今年の午後 9 時のミサは「ミサ曲」（あわれみの賛歌・栄光の賛歌・感謝の賛歌・平和の賛歌）をカトリック聖歌集の天使ミサ曲（ラテン語）で歌います。他の聖歌や祈り、例えば「主の祈り」などは、日本語で歌います。

カトリック聖歌集の天使ミサ曲は、お聴きになった方も多いと思いますが、ハーモニーは有りません。単旋律が教会の聖堂に調和して美しい歌が響きます。また古くからの信者の方には「天使ミサ」は、懐かしいミサ曲ではないでしょうか。

クリスマスまでに聖堂で皆様とともに練習しますので、お耳になじませて頂くと幸いです。

練習日を下記のようにします。どうぞ一緒に歌ってください。

12 月 4 日 9:30 ～ 9:40

12 月 11 日 9:30 ～ 9:40

12 月 18 日 10 時ミサ後



### ★ 墓地っ子たより ★

11月2日 死者の日の墓参をしました。

その後、墓地の整備について事業計画をたてました。詳細は次号に掲載いたします。

カトリック中央協議会では「死者の日」を下記のように記しています。

” 教会の典礼暦で11月2日は「死者の日」とし、亡くなったすべてのキリスト者を祈念します。キリスト者の間では2世紀頃から死者のための祈りを唱える習慣が生まれ、次第にミサが伴うようになりました。亡くなったすべてのキリスト者を1年の特定の日に記念することは、7世紀初めにセビーリヤの司教インドルスが、聖霊降臨の祝日の翌日に死者を記念するミサを行なうように指示したことに始まるとされています。さらに、諸聖人の祭日（11月1日）の翌日にすべての死者を記念する習慣は、998年にクリュニー修道院院長のオディロンによって始められ、その修道院の修道士たちの影響によって11世紀には広く行なわれるようになりました。



11月が「死者の月」として定着してきたのがいつからなのか定かではありませんが、死者への思いがミサをはじめとする様々な祈りの形で表され、それが広がりを見せ、伝統・習慣となって次第に死者の月になったと考えられます。”

（墓地委員会 SF）



## みんなの広場

### 「病と向きあって…」

圭子

蛭田さんにご紹介下さった映画「エンディング・ノート」を見て参りました。

末期癌の告知をうけた主人公が、丁寧に準備を整えながら、明るく過ごし最期を迎えるというドキュメンタリー。そこでは、久々に、なつかしい桜井神父さまの御姿も拝見できました。

実は、私も今年1月の検査入院で肺癌が見つかり、松村神父さまから病者の秘跡を頂いて、再び入院。2月バレンタインデーに手術を受け、左肺半分とリンパが除去されました。同じ癌という病を得たことで、思いが重なり合うシーンもあり、これはこの立場に立たされた者でないと知り得ない厳しさや痛みを思いつつ拝見しておりました。でも、これほどの恵まれた環境の中で、温かい家族愛に包まれて支えられて主人公は、きっと幸せに旅立つことができたでしょう。

丁度私が入院した頃、教会では新しい地区会の立ち上げが始まった時で、最も多忙極める時期でしたのに、にも拘らず病院に通いつめて下さり、温かくしっかりと支えてお世話して頂きました方々のことは、今も胸に熱く、決して忘れることなく焼きついております。そして皆様方のお祈りに支えられて…神に感謝。

主人が五日市霊園に 1991 年から眠っておりますので、この数十年毎年、年に数回は必ず上京して墓参のあと、四谷に立ち寄るのが大きな楽しみでした。26 年前、毎週お勉強で S J ハウスに通い受洗。そして主人の葬儀もクルトゥル・ハイムで執り行われましたので、四谷には特別に深い想い入れがある私ですが、映画の主人公が「気持ちが安らかになれる場所」として四谷を選んでくれたことを何か嬉しく思いました。

### ～ お詫びと訂正 ～

教会報 11 月号掲載の「図書紹介」ですが、「恵みの風に帆をはって—ペトロ岐部と 187 殉教者物語（まるちれす編纂委員会 ドンボスコ社）」と「ペトロ岐部と 187 殉教者（日本カトリック司教協議会列聖列福特別委員会）」の 2 冊の本の紹介でした。ここに記載し、訂正させていただきます。関係の方にはご迷惑をお掛けいたしましたこと、お詫び申し上げます。（広報部）

|                                                                                                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>教会報 1 月号の発行は、1 月 1 日（日）です。</p> <p>編集会議 12 月 18 日（日）です。</p> <p>記事原稿は、12 月 11 日（日）正午までに信徒会館<br/>受付へご提出願います。（広報部）</p> <p><a href="http://www.rokko-catholic.jp">http://www.rokko-catholic.jp</a></p> | <p>カ ト リ ッ ク 六 甲 教 会</p> <p>〒 6 5 7 - 0 0 6 1    神 戸 市 灘 区 赤 松 町 3 - 1 - 2 1</p> <p>電                    話    0 7 8 - 8 5 1 - 2 8 4 6</p> <p>F      A      X    0 7 8 - 8 5 1 - 9 0 2 3</p> <p>発 行 責 任 者    松   村   信   也   神   父</p> <p>編                    集    広                    報                    部</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|